

「ようきてちよーた」＝瀬戸弁で「よく来てくれたねえ」の意味。

ようきてちよーた瀬戸!

編集：瀬戸市おもてなしボランティア
季刊誌作成チーム
発行：瀬戸市 まるっとミュージアム課

No.18 2010. 12. 16.

セト・ノベルティ特集

日本ではあまり知られていませんが、瀬戸は世界でも有数のノベルティ産地で、その作品は世界で高く評価されています。

この写真のような、精巧で緻密な可愛らしいノベルティは、人形のレース、胡蝶蘭の花びら、馬車、ワシの羽根やツメの先まで、すべてやきもので作られています。今回は、この貴重な素晴らしい匠の技「セト・ノベルティ」の特集です。



胡蝶蘭（丸利商会）
※莖は金属製です。



アン王女（テーケー名古屋人形製陶）
※レースやリボン部分も陶磁器です。



白頭鷲（光和陶器）



八頭立て馬車（光和陶器）

● セト・ノベルティって何？

瀬戸は、千年の歴史と伝統をもつ日本屈指のやきものの産地で、食器、花器、茶器、タイル、最近ではファインセラミックス等あらゆるやきものを作っています。

その長い歴史の中で、戦後の瀬戸の窯業をけん引してきた製品のひとつにセト・ノベルティがあります。

ノベルティ (Novelty) という言葉は、「目新しさ、珍しさ」を意味する英語ですが、瀬戸では陶磁器製の置物や装飾品を総称する言葉として使われています。

● どんな種類があるの？

ノベルティは、西洋の18世紀の風俗をうつした古代人形、宗教人形、動物・鳥・魚・昆虫等の置物、キャラクターもの、みやげもの、植物、花入、壁掛、電気スタンド、香水瓶、貯金箱、蓋物などがあり、多種多様なものが作られてきました。

身近なところでは、ディズニーなどのキャラクターもの、子豚の貯金箱、ウイスキーボトル、横浜土産のシューマイに付いている醤油入れ、干支の置物などもノベルティに含まれます。



● なぜ瀬戸でつくられたの？

ノベルティは、もとはドイツが主要生産国で、北米を中心に輸出されていました。

日本では、明治時代に石膏型の製法がヨーロッパから伝わり、瀬戸でもノベルティの先駆けとなる浮き金魚や射的場のまこがたくさん作られました。

第1次世界大戦でドイツからの供給が途絶えたことにより、瀬戸でのノベルティ生産が盛んになっていきました。

最初は小型で単純な形状の製品づくりから始まりましたが、良質の陶土と、長年にわたり培われたやきものづくりのノウハウと、関係者の努力で、戦後はその技術も飛躍的に進歩し、造形や絵付などの精巧さはどこにも引けを取らないもので、世界でも高い評価を得るようになりました。

このノベルティの技術は、現在やきものに限らず、プラスチック業界やおもちゃメーカーなどの分野にも継承されています。



● どうやってつくるの？

ノベルティは、型による成形が中心です。原型をいくつかのパーツに分けて石膏型をつくり、液状の粘土を流し込んで（鑄込み成形）作ります。

鳥などは胴と左右の翼が別々に分かれています。複雑な形になると型が増えますが、量産しやすく、コストが高くないようにし、型割を少なくする工夫が必要です。

鮮やかな絵付けは手作業で行なわれることが多くて、製品によっては2~3回の焼成が必要な場合もあります。

● 見どころは……

ノベルティの素晴らしさは立体物としての表現力です。まるで生きているような動物たちや、しなやかな動きや表情に、さらに繊細で多彩な絵付けが加わり、素晴らしさを一層引き立てています。

さらに驚くことに、デザイン画一枚から、原型師の技術により、どの角度から見ても造形としてのバランスがとれた立体に仕立てられるのです。

そんな技術力の高さと表現力の豊かさを、芸術品を見るのとはまた違った視点から一度ご覧ください。



ノベルティを後世に



瀬戸市で生産されるノベルティの企画・開発を長年手がけておられる加藤工芸会長の加藤勇夫さんにお話を伺いました。

「現在は、居住空間が狭くなっており、求められるノベルティも小さくなり、より精巧さが必要とされます。今でも社内には4名の原型師を置き、情熱を燃やし、常に新たなノベルティ作りを目指しています。

今は、主に有名なキャラクターものを手掛けていますが、こうした動物やキャラクターは、

癒しが求められるこの時代にぴったりです。

メイド・イン・ジャパンというラベルは、昔は、「安かろう、悪かろう」でしたが、現在は世界中に胸をはれる代名詞になってきています。

小さな空間に夢の世界を作るのは日本人の想像力、器用さが向いています。伝統も技術もある瀬戸で、メイド・イン・ジャパンを継承していかなければならない。」とのことでした。

約60年間にわたりノベルティとともに歩んでこられた加藤さんは、「お世話になった瀬戸へ恩返し」として、平成19年から21年にかけて瀬戸産のノベルティ約2,700点を瀬戸市へ寄贈されました。



ノベルティ雑感

昭和30年代、金の卵と云われた中卒の若者が、集団就職で瀬戸市にも九州方面から大勢やってきました。この時期ノベルティは最盛期を迎えていました。市内にはノベルティを制作する会社（100~200人規模）が十数社あったかと思っています。

当時私は窯業高校を卒業し、ノベルティ会社へデザイナーとして6年間程勤務していました。輸出用の人形・鳥・動物、クリスマス用アイテムなどを量産していました。素地作り・焼成・絵付けなどの分業で培われた技術は大変素晴らしく、特に原型や量産のための型作りのテクニックは、他の窯業産地には無かったと思います。

現在は円高の影響で輸出向けのノベルティ会社はわずかになりました。最近店頭で見かけるのは、量産のモノとは違い、作家の手作りの置物です。その始まりの一つは私の先輩の方達ではないかと思っています。

輸出向けの会社に勤めながら手作りで置物などを精力的に造り、東京のデパートでも展示するようになり、それらの影響を受け全国的に大勢の作家が生まれたようです。

今後は、量産のモノ、手作りのモノが共存し、日本ならではのオリジナリティーの高いノベルティが、生活空間の中で大勢の人たちを楽しませるよう各当事者の活躍を願っています。

(陶芸作家：亀井龍二)



● どこで見られるの？

ノベルティ・こども創造館

館内1・2階にある「ノベルティミュージアム」では、欧米をはじめ世界に輸出されてきた多くの優れた製品を見ることができます。

1階には、セト・ノベルティの傑作が並び、2階では、明治時代に作られた浮き金魚に始まるノベルティの歴史や鳥・動物・花・人気スターなどバラエティ豊かな製品を見ることができます。

また、週末には、セト・ノベルティの高い技術(原型-石こう型-鑄込-絵付)を職人さんにやさしく教わり体験をすることができます(有料)

子どもだけでなく大人も楽しめるノベルティいっぱいの施設です。



開館時間 10時～17時/休日 月曜日(祝日の場合は翌平日)・年末年始/入館料無料/駐車場 20台(無料)構外/TEL0561-88-2668

瀬戸蔵ミュージアム

瀬戸蔵ミュージアム3階では、全長30mの大パノラマ展示で、瀬戸焼千年の歴史が紹介されており、その一角に戦後の瀬戸を支えたノベルティ製品を見ることができます。

特にレース人形は、やきものとは思わずに通りすぎてしまうほど精巧な作りで、一見の価値ありです。

また、3階のライブラリでは、ノベルティやレース人形の作り方をビデオで見ることができます。



開館時間 9時～18時 / 休日 臨時休館日・年末年始/入館料 500円、高校・大学生・65歳以上 300円、中学生以下無料/ 駐車場 189台(1時間無料、以降 100円/1h) /TEL0561-97-1190

※県陶磁資料館(南館)でも見られます。

● せと末広商店街での展示

ノベルティを商店街で見てもらいたいと、せと末広商店街では、ノベルティ文化保存研究会の協力を得て、平成22年に「せとノベルティアーケード in 末広」(9月)、「昭和のポーセリンランプの展示」(12月)と題して、商店街の協力店舗のショーケースなどにノベルティを100点あまり展示しました。

商店街の加藤理事長は、「瀬戸だけに存在した貴重なノベルティの素晴らしさを見て、感じてもらいたい。

今後もイベントに合わせてノベルティを展示したい。」と、ノベルティへの思いを話されていました。



● どこで買えるの？

◇ピアフ (0561-97-0123)

輸出向けに生産されたアンティークのノベルティ人形、鳥、動物などを販売しています。



◇瀬戸蔵セラミックプラザ (0561-89-5758)

今主に国内向けに生産されるノベルティを販売しています。

※ 陶磁器の人形・動物・置物等の製造業者は下記のHPで紹介しています。

◇愛知県陶磁器工業協同組合 (0561-82-4151)
<http://www.aitohko.com>

◇瀬戸陶磁器工業協同組合 (0561-82-9131)
<http://www.setomono.or.jp>

*この季刊誌「よきてちよーた瀬戸！」は、瀬戸市おもてなしボランティアの季刊誌チームメンバーが、ボランティアの目線で瀬戸の観光情報を取材し、作成しています。ぜひ、誌面に対するご意見・ご感想を事務局までお聞かせください。季刊誌「よきてちよーた瀬戸！」は、まるっとミュージアムのホームページに掲載しています。<http://www.seto-marutto.info>
《瀬戸市おもてなしボランティア事務局》

瀬戸市役所 まるっとミュージアム課 〒489-0813 瀬戸市蔵所町1番地の1
TEL: 0561-88-2541 FAX: 0561-97-1557 E-mail: marutto@city.seto.lg.jp

